

1 曲 3 分, 15 人の作曲家による, 15 曲.

photo: YABU Kumiko design: OKUDA Senkyu

鍵ハモトリオ・コレクション

「百人一首」のような「鍵盤ハーモニカ(鍵ハモ)トリオ集」を作ろうと思って、同時代に生きる作曲家に委嘱を始めたのは、2006年のこと。5年間で、3分以内の小品が16曲も集まり、一曲ごとに全く違った響きが立ち上がった。鍵ハモトリオという編成は、本当に可能性があると確信した。しかも、日本は世界屈指の鍵ハモ先進国。メンバーを集めるのも比較的簡単で、再演もしやすい。コンサートホール、ライブハウス、会議室、カフェ、様々な場所で演奏ができる。例えば、田中吉史の「うろおぼえの旋律とコラル」は、07年に京都で初演したが、その後も、08年に東京で、09年に浜松、名古屋、ロンドン、東京で再演するなど、頻繁に演奏している。

日本以外の国では、鍵ハモトリオは、非常に珍しい編成だが、鍵ハモと譜面と音源を持って、世界各地で少しずつ種まきをし、輪が広がってきた。イギリスには、鍵ハモに興味を示している作曲家が何人もいる。例えば、Andrew Melvin がブルネル大学に提出した博士論文では、彼自身の鍵ハモトリオ作品「トリオ」について、詳述されている。インドネシア国立芸大を最優秀の成績で卒業したばかりの Gardika Gigih Pradipta は、鍵盤ハーモニカを頻繁に用いた演奏活動を展開している。そして、こうした鍵ハモに興味を示す作曲家は、面白い作曲家ばかりなのだ。

こうした活動に、日本現代音楽協会が興味を示し、鍵ハモトリオの新作を公募することになった。これは、歴史的な事件だと思う。名乗りをあげた作曲家は、予想通り個性派ぞろいだった。日本現代音楽協会の会員から7名、非会員から4名、計11名の新作が集まった。それに加えて、インドネシアの民族音楽を題材にした Gardika Gigih Pradipta の作品、非常にエネルギッシュでリズムカルな木山光の作品、イギリス人らしいユーモアが詰まった Andrew Melvin の作品など、あわせて15人、15曲。譜面を前に現在、猛練習中で、大変だがこれは本当に面白い。今回のプログラムは、様々な音の珍味を一口ずつ味わっていただけたと思う。

コンサートでは、3分の曲の演奏の前に、それぞれの作品や作曲家に関する5分のトークをつける予定だ。

鍵ハモトリオという編成は、いずれ(ハイドンの時代の弦楽四重奏のような)スタンダードな編成になると思う。多くの作曲家が、これからも鍵ハモトリオの作品を書きだそうし、鍵ハモを演奏するプレイヤーも増えていこう。そんな時代は時々刻々と近づいている。今回のコンサートは、その大きな一歩になると思う。(野村誠)

プログラム PROGRAM

アンドリュー・メルヴィン「トリオ」
Andrew MELVIN TO-RI-O

池田真沙子「もつれたりリチェルカーレ」(世界初演)
IKEDA Masako Entangled ricercare

大慈弥恵麻「Nasobema 2」(世界初演)
OJIMI Emma Nasobema 2

ガルディカ・ギギー・ブラディプト「カンボンメロディー」(世界初演)
Gardika Gigih PRADIPTA Melodi di Kampung

木山光「曾根崎心中」(世界初演)
KIYAMA Hikari The love suicides at Sonezaki

近藤浩平「南の島の3人の男」(世界初演)
KONDO Kohei Three men on the Island on the south

高橋哲男「五連鐘楼のアナグラム」(世界初演)
TAKAHASHI "ja" Tetsuo The anagram of 5 bells carillon

田口雅英「3分間の夢想」(世界初演)
TAGUCHI Motohide A daydream in three minutes

中村典子「雛翠 baby green」(世界初演)
NAKAMURA Noriko Baby Green

野村誠「ベルハモまつり」
NOMURA Makoto Pasqua Belhamasca

平木悟「音楽は◎る」(世界初演)
HIRAKI Satoru The music moves around.

福井ともこ 新作(世界初演)
FUKUI Tomoko new work

三沢治美「ブルーダンス」(世界初演)
MISAWA Harumi Blue Dance

南川弥生「ムーンレインボウ」(世界初演)
MINAMIKAWA Mio Moon rainbow

諸橋玲子「おとなひII」(世界初演)
MOROHASHI Reiko OTONAI II

プロフィール PROFILE

野村誠 NOMURA Makoto
鍵ハモ奏者として、現代音楽/即興演奏のフィールドを中心に、幅広く演奏活動。Juice Festival (イギリス)、Melodica Summit (ドイツ)、Lille 2004 (フランス)、Zommer Jazz Fiestour (オランダ)、竹山国際芸術祭(韓国)、Festival Musik Tembi (インドネシア)などで鍵盤ハーモニカを演奏。96年、鍵ハモ・オーケストラ「P-プロック」結成し、平石博一、Elliott Sharp、しばてつ、Soe Tjen Marching 他、数多くの作曲家の新作を世界初演。06年より、「鍵ハモトリオ」プロジェクトを開始し、鶴見幸代、朴守賢、田中吉史、David Kotlowy、橋本知久、牛島安希子などの作曲家の委嘱新作を次々に世界初演。09年、国際交流基金(ロンドン)にて、鍵ハモのレクチャーを行う。NHK教育テレビ「あいのて」、「ひみつのチカランド」、「ドレミノテレビ」などに出演し、鍵ハモの魅力を伝える。第1回アサヒビール芸術賞受賞。作曲プロジェクト「原発やめます」を進行中。著書に「音楽づくりのヒント」(音楽之友社)、「即興演奏ってどうやるの」(あおぞら音楽社、片岡祐介との共著)ほか。現在、京都造形芸術大学客員教授。

片岡祐介 KATAOKA Yusuke
1969年生まれ。東京音楽大学で打楽器を学び、スタジオミュージシャンを経て、1997年~2000年、岐阜県音楽療法研究所に研究員。打楽器奏者としては、伊左治直、坂野嘉彦、近藤浩平、野村誠などの作品を世界初演。06年度NHK教育テレビ「あいのて」に黄色のあいのてさんとしてレギュラー出演。1998年より、鍵ハモ・オーケストラ「P-プロック」にゲストとして参加するなど、頻繁に鍵ハモの演奏を行う。2009年には、ロンドンの国際交流基金にて、Andrew Melvinの鍵ハモ3重奏のための「トリオ」を世界初演。著書に「CDブック音楽ってどうやるの」(野村誠と共著:あおぞら音楽社)がある。現在、京都女子大学、京都造形芸術大学非常勤講師。

鈴木潤 SUZUKI Jun
バス鍵ハモの第一人者。京都大学哲学科卒業後(卒業論文のテーマは「リズム概念の拡大と発展」)、レゲエ・キーボーディストとして、ジャマイカおよび日本のレゲエアーティストのツアー・レコーディング等をサポート。その後、R&B、ブラジル音楽のキーボーディストとしても活躍。鍵ハモ・オーケストラ「P-プロック」は、結成時より参加し、バス鍵ハモの演奏技術を開拓し、イギリス、フランスでの公演で、絶賛される。11年、メロディオンフェスティバルに出演し、バス鍵ハモの魅力を披露。著書に「こどもの器楽合奏曲集」、「音・リズム・からだ」(民衆社)ほか。参加CD多数。現在、京都女子大学、京都造形芸術大学非常勤講師。

主催: 日本現代音楽協会(国際現代音楽協会日本支部)
協力: 山村サロン 協賛: 株式会社 鈴木楽器製作所
助成: 芸術文化振興基金 公益財団法人 花王芸術・科学財団
公益財団法人 ロームミュージックファンデーション
一般社団法人 日本音楽著作権協会(JASRAC)



山村サロン 芦屋市船戸町4-1-301
芦屋ラボルテ本館3F 0797-38-2585
JR 芦屋駅下車北側陸橋を歩いてすぐ。
阪急芦屋川駅から徒歩10分。バスで5分。
阪神芦屋駅から徒歩10分。

